

## 2000年度現代経済学 後期試験(一部略)

法政大学経済学部 鈴木 豊

### 1、ゲーム理論基礎 囚人のジレンマ、ナッシュ均衡、後ろ向き帰納法、等。

### 2、不確実性と情報の基礎

(1) 「リスク回避的である」とは、( ) が同じであれば、より( ) の小さい選択肢を偏好するということである。( ) を埋め、この「定義」を、図解によって示せ。

(2) ある意思決定者は、次のような効用関数をもっているとする。

純利益・損失	-6000	-4000	-2000	0	2000	4000	8000	10000
効用	0.20	0.46	0.69	0.75	0.78	0.80	0.84	0.86

この人に、ある事業への投資機会が与えられている。この投資からは、もし事業が成功すれば8000ドルの純利益が得られ、失敗すれば2000ドルの純損失が生ずる。この意思決定者は事業の成功と失敗は同程度に確からしいと判断している。なお、他のしかるべき投資機会は存在しない。

(2.A) この人のリスク態度は何か。(1)を参考にして答えよ。

(2.B) 投資をしないときに、この人はいくらの効用を確保できるか。

(2.C) この人はこの事業に投資すべきであるか?理由を明確に示して答えよ。

### 3、外部性とコースの定理

ある企業が公害を発生させている。政府はその対策として次の5つの選択肢を考えているが、その効果について比較検討せよ。簡単なモデル(図など)を作って、要点を簡潔に指摘しつつ答えること。

(ア) 自由放任にする。市場に任せる。

(イ) この企業の生産に対して、公害税を課す。

(ウ) この企業の生産削減に対して補助金を出す。

(エ) この企業の生産物を消費している消費者に対して消費税を課す。

(オ) 加害者と被害者の自由な交渉に任せ、政府は介入しない。

### 4、マクロ経済学入門

(1) 新古典派経済学とケインズ経済学の二つのマクロ経済モデルについて、(イ)労働市場の枠組みの重要な相違と、労働市場に超過供給が存在しているときに何が起こるかの相違、(ロ)貯蓄と投資の均衡を二つの経済学がどう捉えるかの相違の視点から簡明に解説せよ。その際、非自発的失業、(実質)利子率決定のメカニズムの2用語は回答の中に入れ、下線を引くこと。その他にも、重要なキーワード(Key Word)は、解答の中に適宜適切に入れること。

(2) 次のようなケインズモデルを考える。

$$Y = C + I$$

$$C = 100 + (0.9)Y$$

ここで、 $Y, C$  は、それぞれ国民所得および総消費である。

(イ) 外生的支出  $I$  (例えば投資) が 200 であるとする、均衡国民所得水準はいくらになるか。

(ロ)  $I$  (投資) が 200 の時、今期の生産 (産出) 水準が 295 だとすると、経済でどのようなことが起こるか、説明せよ。ヒント：いかなる調整圧力が働くか？